

館報

May 2003

No. 52

The Yokohama National University Library Bulletin

目次

図書館雑感 (笹井 均)	1
新装開館まで あれこれ (立原 敏)	2
新中央図書館の概要 (青木 利根男)	4
サービス体制の概要 (岡部 美紀)	5
図書館に関する会議・主要日誌・職員の動向	6
図書館からのお知らせ	8

図書館雑感

笹井 均

私は横浜国大に奉職して30年ほどになりますが、図書館及び資料室に関係する委員を務めた経験はほとんどありません。この度、突然図書館長に任命され正直なところ大変な戸惑いを覚えています。今のところ図書館については、中期目標・中期計画の資料を読ませていただいた程度の知識のほか語るべきものはあまり持ち合わせておりません。したがってここでは、私が図書館に抱いている感想を披露させていただくこととお許し願いたいと思います。

最初から私事で恐縮ですが、私の故郷は広島県の呉市、戦前に軍港として知られた中規模な地方の都市です。高校卒業後東京の私立大学に入学いたしました。昭和30年の中期頃、日本が高度成長期に入ろうとしている時でありました。その頃流行ったフランク永井という歌手の「1万3千8百円、贅沢言わなきゃ食えないか・・・」という歌を記憶しているという事は、サラリーマンの初任給がその程度の金額であったのではないかと思います。戦争の傷跡を少し残しながら、日本全体が夢もあるが貧しい時代でありました。

当時、私の故郷の駅を通る東京行きの列車は1日1便、急行安芸号という名前です。午後3時頃呉駅を発ち、翌日の朝8時東京駅着という、実に17時間の長旅



です。寝台車などという贅沢は学生の身分には許されるものではありません。4人掛けの席に座り続けで夜を明かすことになるわけです。

私は、大学生となって、春、夏、冬の休みは必ず故郷で過ごすことにしておりました。休みが終わり上京する際には母が駅で私を見送ってくれます。駅頭に立つ母の悲しそうなすがすがしい目を見ることができな

くてあらぬ方向を見ておりました。発車の汽笛がその思いを切り裂き、故郷を後にします。座席に座り呆然としたまま時間が過ぎ去っていきます。一夜明けて東京着。丁度通勤時間と重なり、夥しい人の群れが自分の周りを通り過ぎて行きます。一人きりであるという実感が自分を襲い、心細さと淋しさに立ちすくむおもしろい気がします。

このことを克服する手段として私が思いついたのが、大学にある中央図書館でありました。一日中図書館という空間に身を置くということです。言葉を交わすことはないが、同じ目的を共有した同世代の人々がそこにいるという意識を求めたのかもしれませんが。ときには本を読み、ときにはかつてこの場所に身を置いていたであろう偉大な先輩に思いを馳せながら。私にとって図書館は、ホームシックを癒し、カルチャーショックを和らげてくれる妙薬であったわけです。爾来、学部、大学院と私の勉強する場は図書館となりました。

それから何十年もの月日が経ち、情報化の流れの中で、図書館の機能は大きく変わってきております。国大の中期目標・中期計画にも謳ってあるように、新しい情報技術を活用した教育・研究・社会への学術サービスの提供が図書館の担うべき大きな役割であることは明白でしょう。しかし私にとっては、それだけではなく、自学自習の場としての図書館にも愛着を禁じえません。そこには、ほろ苦さと甘酸っぱさを含んだ青春の足跡があるからです。必ずしも経済や機能の合理性だけで割り切ることでできない意味をもっているからではないかと思えます。

横浜国大附属図書館は今年の4月にリニューアル・オープンいたしました。キャンパスのメインロードから見る景観は強い意志を未来に向け主張しているようです。前面ガラス張りとなっており、館外から館内を館内から館外を見通せる一体型の空間を醸しだしております。館内は1階から4階へと階層を重ねるごとに“動から静へ”、あるいは“サロンの空間からアカデミックな雰囲気へ”誘うよう設計されていると聞いております。1階はカフェラウンジとメディアホールのあるくフリー・フロア>、2階は中央図書館のメインなフロアであるくアクティブ・フロア>、3階は学生のためのくラーニング・フロア>、4階は研究者のための静かな環境を保ったくアカデミック・フロア>を基本コンセプトとしております。

図書館は、単なる書物の所蔵施設でも電子化されたサイバー・スペースでもありません。大学としての豊かな成果を創造していくための「情報と思想のフォーラム」(アメリカ図書館協会)だと考えます。前図書館長、権上教授の言葉(館報 No. 48, 2001)「新たに加わる機能をどう実現するか。これは、図書館職員の側の取り組みもさることながら、多くは利用者である大学の構成員、さらにこれから増えるであろう地域社会の利用者との協働作業に大きく依存することになるはずである。これこそが新しい図書館のコンセプトなのである。」を肝に銘じつつ、是非皆さんのお知恵を拝借したいと考えております。

(ささいひとし 副学長・附属図書館長・国際社会科学
研究科教授)

新装開館まであれこれ

立原 敏

本年4月、附属図書館は新営改修工事を終え、装いも新たに開館いたしました。この工事について、昨年4月の転任時には、「渡り廊下で結ばれた独立した二つの建物(一号館・二号館)を改修し、それぞれを増築して張り出すと共に二つの建物の隙間部分も繋ぎ、一体化して一つの建物(中央図書館)にする。増築部分の工事はこれから本格的に始まるので、期待を持ってよく観察して下さい。」と言われ、完成時の模型を見せてもらった。

プレハブの仮事務室で工事の進捗状況の報告を聞く度に、工事現場に行き、塀の外から飽きもせず良く眺めた。クレーン車が来て鉄骨が組まれた後、木枠が出来上がると、生コン車からコンクリートがホースで送られて養生……と工事が順調(?)に進んでいく。こ



の間、若葉から木々も段々とその緑を深め、こっちも上着も脱いで半袖となる。

夏の終わり頃？秋の初め？になると型枠も取れて、前面（全面）ガラス張りの一端が伺えるようになってきた。工事現場の前を通る人達の視線も、興味深げに中を覗き込む様に伺え、関心をもたれていることに満足する。そうこうするうちに内部の状態は良く分からないが、外観はほぼ出来あがった状態となる。

再び上着が必要となる頃から、工事は最後の仕上げの段階に成り、時々クレーン車も見かけ、いろんなものを吊り上げている。学内の木々が紅葉を始めると、工事現場を囲う塀もほとんど無くなり、灯りも点くようになった。

この頃からは、リニューアルオープンに向けての作業手順について再確認すると共に、館内のサイン表示や購入物品についての具体的な選定作業を開始する。竣工間近の期待と不安が交錯する時期というのであろうか。プレハブの撤収計画も検討に入る。学内各所に分散保管されている図書館資料の類をいつ運び戻すか？、図書館はいつからオープンさせるか？、事務室の移転はいつにするか？、と悩みは尽きない。一つ一つ気が付く度に、段々と気が重くなる？と言う具合だ。

学内の紅葉が最盛期となり、工事は大詰めを迎えて、最後の仕上げの段階になる。期待に満ちた気持でヘルメットを被り、改修された館内を一巡する日が来た。机、椅子、書架等、一切何も入ってない館内は「明るくて広い！」が第一印象。「快適な館内環境を維持していくのが、こりゃ大変だわ。」と言うのが感想の一番。素直に喜べないのが悲しい。工事の竣工前から早くも悩みの第一歩を踏み出す。取り越し苦労で終わることを願いたい。

竣工して間もなく学内見学会を行う。見学者の様子は満足そうで、非常に好評、期待を持ってオープンまで待ってもらえそうとの印象を受けた。見学後のアン



ケートに書かれた感想のキーワードは、広い、明るい、綺麗な順。全館禁煙にしてほしいとか、綺麗に使いたいなどの意見もあり、拍手を送りたい気分になる。感じる場所は誰も同じってとこかな。

見学会後、新しい館内施設について、安全面や使い勝手の面から気づいた事を話し合い、開館までに変更願いたい点を要望として施設担当者に申し入れをした。そして…。

ガラス板の上にステンレスの円筒を載せ一直線にスッキリした洒落た感じの手摺りに、縦長三角形の支柱を取り付けて心理的不安も解消したり、明るく太陽の光が燦々と差し込むトイレは、磨りガラスと交換して光を和らげたり…と、あれこれ図書館からの要望を聴き入れてもらい、施設担当者には何かと御労苦をかけ、感謝に耐えません。

12月末の仕事納め直前に事務部門はプレハブの仮事務所から移転、新年（本年）から新装の建物で、仕事始めを迎える。決意？も新たに開館に向けた最終段階に突入する。新装なった図書館正面入口には、「平成15年4月オープン」と赤文字で書いた表示も出す。

書架はどのようなものを、カーテンはどこ窓にどのように、PCプラザの机と椅子はどうする、3F閲覧室展望席の椅子の形はどうか、館内サイン表示の大きさや色は……など、各人が責任を分担しつつも全体の調和を念頭に入れて連絡を取り合い、一つ一つ具体的に決め、順次発注していくという作業が続く。勿論、通常の業務もある。

広く明るかったフロアの内側に書架がピッシリと設置され、2月下旬からは図書館資料を中央図書館に運び込み、順次配架していく作業に入る。向こう側が見渡せなくなり、広い！という感じは余りしなくなる。閲覧席は書架の周りの窓際なので、明るい感じに変わりわない。3F窓際に長く続く展望席の白いテーブルが眩しい。

備品の搬入や機器類の設置・調整とあわせ、開館後の館内各部屋の使用の仕方や手続きについて検討し、開館に向けての最終的な準備作業を行うなか、安心？して4月を迎えたいと誰もが思い、一日一日が過ぎていく。

何かとバタバタしながら、少しウキウキしてその日（開館日）を迎えた。『図書館は、知の創造と継承を担うことをその本分とする。』を念頭に、今後ともそれに相応しい蔵書や設備類の充実に努めたい、利用者と一緒に館内外の良好な環境をいつまでも維持していきたいと願い、殆ど直射日光が差さない窓からコンクリートの壁に這った蔦を眺めつつ、その方策を思案している。

（たつはら さとし 附属図書館事務部長）

新中央図書館の概要

青木 利根男

中央図書館の増築・改修については、これまでも旧1号館の改修構想や、隣接箇所にまったく新しく建物を作る3号館構想などがあった。直近の3号館構想が共同溝の関係で沙汰止みとなってから新しく構想されたのが、2つの建物の改修と増築を内容とする概算要求である。これが今回竣工した新中央図書館へとつながることとなった。

ここでは、筆者が立ち会った最近4年間の経過と構想内容について簡単に振り返ってみたい。

1. 竣工までの経過

(1) 附属図書館施設のトータルデザインに関する調査研究プロジェクト（平成11年度）

平成10年当時、図書館の増築に関して、それまでの3号館構想から、既存施設の改修による構想により概算要求する方針が施設部から伝えられ、この方向での要求内容について図書館での検討が始まった。作業は事務的に進められる一方で、図書館の新しいあり方を建築空間・図書館機能空間の面から抜本的に検討しようということ、図書館という建物について空間的のみならず、機能的に検討するための図書館施設に関するトータルデザイン調査研究のプロジェクトが開始された。これには、学内委員の他、学外からも建築や図書館の専門家が加わった。プロジェクトは、前後5回ほどの検討会と発表があり、議論は図書館施設のあり方に留まらず広く図書館機能のあり方、果ては大学のあり方にまで及ぶほどの広がりの中で行われ、事務方として議論を聞くだけでも非常に知的刺激に富む会合であった。

(2) 附属図書館施設基本計画の策定（平成12年度）

平成12年度の課題は、前年度にまとめられたトータルデザインのコンセプトを具体的な施設計画としてイメージする作業を行うことであった。このため、学内の委員を中心とした施設基本計画策定ワーキンググループが立ち上げられた。この報告書は平成12年11月にまとめられたが、この中の施設イメージの作成の過程では、本学のOBや学生の意見が取り入れられた。

また、この間、施設担当部局からは精力的に文部科学省への説明が行われ、この年の末の補正予算で工事の一期分が認められることとなった。

(3) 工事の開始（平成13年度）

工事の実施が決まり、施設担当部局による施設実施計画作成のため図書館とも具体的な話が行われるとともに、図書館資料や物品の退避・移転が2回にわたって実施された。図書館事務部も理工学系研究図書館とその周辺や経済学部棟の中にある社会科学系研究図書館にプレハブ棟を設置して引越しを開始した。引越し期間は都合1年6ヶ月となり、2回の夏を仮事務室で過ごした。

工事自体も2号館部分の改修・増築が先に開始され、続いて1号館部分の改修・増築を行う二期計画で実施された。

(4) 工事竣工（平成14年度）

工事は、平成14年11月末に建物としての竣工を見た。以後、この4月までの5ヶ月間は、学内に退避していた大量の図書館資料や物品の再搬入、新規物品の調達・設置、図書館資料の再配置・調整で瞬く間に過ぎ去った。この作業の一部はまだ残っていると思う。

2. 新中央図書館のスペース

新中央図書館は、「人と情報の出会いを演出する多機能文化空間」の創出を目指したものである。

新館において実現した新しい機能スペースは、新営・改修にあたって新たに付け加えた部分と、従来の中央図書館において課題と考えられた点を改善・強化した部分とからなる。

新営・改修にあたって新たに付け加えた部分は、①学内における中心的建物の建設、②学生の誇り、思い出となる空間の創出、③多様な利用に対応した機能空間の創出（カフェの設置、個室の設置など）などが、トータルデザイン調査研究段階からの目標となった。この点では、ガラス面を多用した施設外観や館内から見た景観、従来の静かな読書を意識した閲覧席と書架に加えて、メディアホールや情報ラウンジ、ワーキングスタジオ、カフェなど多様な機能空間を新たに大胆に設置している。

また、従来の図書館の改善という部分としては、①建物の狭隘・わかりにくさの解消、②学習用資料展示スペースの拡充、③閲覧席の拡充、④学内学術資料の保管スペースの拡充、⑤情報利用空間の拡充と総合情報処理センター情報処理教室との連携、⑥事務室空間

と利用サービス空間の接近、⑦カウンターと参考図書
の近接による情報コンサルタント機能の強化、などが
基本的課題として意識され、スペース面積の拡充や配
置の変更などが実施された。

(最後に)

新中央図書館建設には多くの方がさまざまな局面で
関わりを持った。竣工とリニューアルオープンによっ

て施設的にはひとつの区切りを迎えたことになる。し
かしながら、図書館が機能するためには施設というハー
ドとともにソフト面の充実が重要である。トータルデ
ザイン調査研究報告書において触れられているとおり
常に「変貌する図書館」を目指して今後も大学ととも
に発展することを祈念したい。

(あおき とねお 前附属図書館情報管理課長)

サービス体制の概要

岡 部 美 紀

4月よりリニューアルオープンした中央図書館は、
貸出・返却及び各種利用申し込み等の従来のサービス
が始まりました。今年度より新たな設備も設置され魅
力ある図書館に生まれ変わりましたので内容とサービ
スについて紹介します。

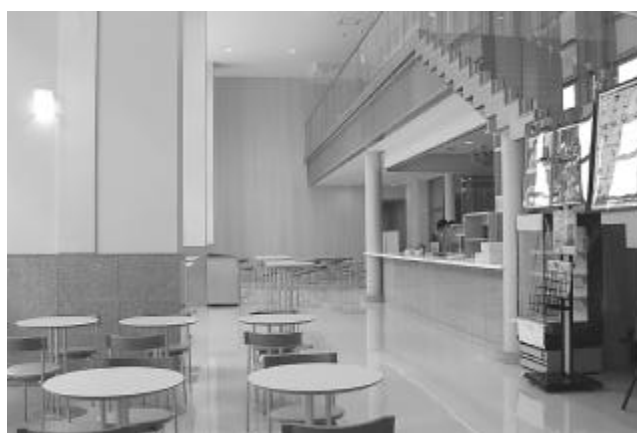
1. メディアホール（1階）

学内の知識情報交換及び発表等多目的利用ができる
階段状のホール。イベントで使われていない場合は広
い座席でくつろぎとやすらぎの場として利用可能。



2. カフェ（1階）

コーヒー等を飲みながらくつろげる空間。カフェメ
ニューのみ飲食可能。



3. 情報ラウンジ（1階）

情報発信の場。卒業制作等の展示スペース。通常は
ベンチやテーブルがある休憩と情報交換のスペース。
持ち込みのPCで無線LANの利用が可能。



4. メディアブース（1階）

ガラス張りの個室群。グループで利用可能な個室と
放送大学の放送を流すブースとがある。備え付けのPC
やモニターを利用することも可能。

5. リフレッシュルーム（2階）

新聞等が配架されている部屋。ペットボトルの飲み物の持ち込みが可能。



6. PCプラザ（2階）

総合情報処理センターのサテライトPCが設置されており、インターネットやメール等がいつでも利用可能。



7. ワーキングスタジオ（2階、3階）

ガラス張りの作業室。各室にPCが備え付けられている。資料を利用したグループ学習やミーティング、ゼミ学習等に利用できる。複数名での映画鑑賞ができる部屋や画像編集ができる部屋（メディアラボ）もある。



8. AVエリア（3階）

映画（ビデオ・DVD）等の視聴覚資料を個人で利用できるブースが設置されている。

9. その他

3階には、情報コンセントを設置したパノラマ閲覧席がある。持ち込みのPCをインターネットにいつでも接続可能。又、他の利用者の迷惑にならないように携帯電話を利用できる部屋もある。

なお、各部屋及びフロアについては、受付利用時間が異なります。詳細につきましては2階メインカウンターにお尋ね下さい。

（おかべ みき 附属図書館資料サービス係長）

図書館に関する会議

（平成14年11月1日～平成15年4月30日）

運営委員会

平成14年度第4回（11月15日）

<審議事項>

- 1) 中期目標・中期計画について
- 2) 資料収集計画の見直しについて
- 3) 平成15年度特別経費の要求について
- 4) 公用帯出図書の点検について
- 5) 一般市民等学外者への図書資料の貸出（試行）の実施について

6) 新中央図書館の学内内覧会の開催について

7) 正式開館までの新中央図書館の特別利用について

8) 新中央図書館カフェラウンジの運営組織等について

平成14年度第5回（1月24日）

<審議事項>

- 1) 資料収集計画の見直しについて
- 2) 平成15年度特別経費の要求について
- 3) 平成16年度概算要求について
- 4) 大学評価・学位授与機構の全学テーマ別評価「教育サービス面における社会貢献」の評価結果等を受けての改善について

- 5) 新中央図書館施設の利用・運用方針について
- 6) 平成14年度臨時休館について
- 7) 平成15年度附属図書館開館日程について
- 8) 平成15年度情報リテラシー教育支援の実施計画について

平成14年度第6回（3月14日）

<審議事項>

- 1) 横浜国立大学附属図書館規則等について
- 2) 横浜国立大学附属図書館特別室使用細則の制定について
- 3) 中央図書館サービス区域の時間毎の縮小について
- 4) 平成16年度概算要求について
- 5) 平成15年度資料収書計画について
- 6) メタデータ・データベース共同構築事業への参加について
- 7) カフェの名称について

図書館資料選定小委員会

平成14年度第3回（2月14日）

<審議事項>

- 1) 平成15年度大型コレクション収書計画の策定について

主要日誌

（平成14年11月1日～平成15年4月30日）

- 11.7 神奈川県図書館協会広報委員会（神奈川県立図書館）
- 11.13 関東地区国立大学附属図書館事務（部・課）長会議（筑波大学）
- 11.14 神奈川県内大学図書館相互協力協議会講演（東海大学）
- 11.14 神奈川県図書館協会職員研修（神奈川県立図書館）
- 11.21 電子ジャーナル・タスクフォース（東京大学）
- 11.26-27 国立大学図書館協議会シンポジウム（千葉大学）
- 11.29 横浜市内大学図書館コンソーシアム設立検討委員会（神奈川大学）
- 11.29 新中央図書館竣工
- 12.12 神奈川県図書館協会広報委員会（神奈川県立図書館）
- 12.12 日本研究情報専門家研修（国際文化会館）
- 12.13 神奈川県図書館協会大学図書館委員会（東海大

学）

- 12.16 新中央図書館見学会
- 1.23 国立大学附属図書館事務部長会議（岐阜大学）
- 2.13 神奈川県図書館協会広報委員会（神奈川県立図書館）
- 3.6 法人格取得問題に関する附属図書館懇談会（東京大学）
- 3.7 横浜市内大学図書館コンソーシアム設立検討委員会（神奈川大学）
- 3.13 電子ジャーナル・タスクフォース（東京大学）
- 3.14 神奈川県図書館協会理事会（神奈川県立図書館）
- 3.18 神奈川県内大学図書館相互協力協議会（東海大学）
- 3.19 神奈川県図書館協会広報委員会（神奈川県立図書館）
- 4.4 中央図書館リニューアル・オープン
- 4.24-25 関東地区国立大学図書館協議会総会（山梨大学）
- 4.25 神奈川県図書館協会理事会・総会（神奈川県立図書館）

職員の動向

（平成14年11月1日～平成15年4月30日）

併任

- （1月1日付）
 情報管理課雑誌管理係長
 （情報管理課図書管理係長） 大金 聡男
- （4月1日付）
 館長
 （副学長・国際社会科学研究所教授） 笹井 均

転入

- （3月16日付）
 情報サービス課相互協力係
 （新採用） 杉山 玲子
- （4月1日付）
 情報管理課長
 （東北大学附属図書館情報管理課長） 三池慎三郎
- 情報管理課雑誌管理係
 （筑波大学図書館部情報システム課） 森岡 緑
- 情報サービス課資料サービス係
 （東京大学地震研究所） 後藤 俊彦

併任解除

- （4月1日付）
 国際社会科学研究所教授
 （館長） 権上 康男

情報管理課図書管理係長
(情報管理課雑誌管理係長) 大金 聡男

館内異動

(4月1日付)

情報管理課雑誌管理係長
(情報サービス課資料サービス係) 黒川 俊浩
情報サービス課資料サービス係長
(情報サービス課資料サービス係図書主任) 岡部 美紀
情報サービス課資料サービス係図書主任
(情報管理課雑誌管理係) 吉田 幸苗

転出

(1月1日付)

静岡大学附属図書館情報サービス課長
(情報管理課雑誌管理係長) 大石 博昭

(4月1日付)

日本学術振興会総務部システム管理課長
(情報管理課長) 青木利根男
京都大学附属図書館情報管理課
(情報サービス課資料サービス係長) 梶川 俊明

退職

(2月28日付)

(情報サービス課相互協力係) 北嶋 友紀

図書館からのお知らせ

JCR on CD-ROM

JCR (Journal Citation Reports) on CD-ROMが使えるようになりました。JCR収録の学術雑誌のインパクト・ファクター (文献引用影響率) 等のデータにより、雑誌の影響力や重要度等を調べることができます。JCRは、自然科学版 (Science Edition) と社会科学版 (Social Sciences Edition) の2分野から構成されています。

附属図書館ホームページ (www.lib.ynu.ac.jp) の「CD-ROM検索」メニューから学内のみ利用できます。

NACSIS-IR / NACSIS-ELS

国立情報学研究所が提供するNACSIS-IR (情報検索サービス) およびNACSIS-ELS (電子図書館サービス) が「機関別定額制」により利用できるようになりました。

NACSIS-IRでは、「科学研究費補助金研究成果概要

データベース」等の他、各種の文献データベース等が使えます。

NACSIS-ELSでは、日本の学協会が発行する学術雑誌をオンラインで閲覧することができます。

「機関別定額制」とは、学内LANに接続されたコンピュータから、料金を意識しないで自由にNACSIS-IRとNACSIS-ELSを使うことができる方式です。

既に「個人別従量制」により同サービスを利用されている方は、「機関別定額制」による利用をお奨めします。(「個人別従量制」で利用した場合は学内からの利用であっても従来どおり課金されますのでご注意ください。)

附属図書館ホームページ (www.lib.ynu.ac.jp) の「オンラインデータベース検索」メニューから学内のみ利用できます。(直接、「機関別定額制」のページ (webfront2.nii.ac.jp) にアクセスしても利用できます。)

情報リテラシー教育支援

附属図書館では、情報リテラシー教育の支援を目的として、以下のようなガイダンス等を開催していますので、どうぞご利用ください。

ライブラリー・ガイダンス

超初心者向けの図書館利用案内から電子ジャーナルの説明まで、5つのメニューを用意しています。お気軽にお申込ください。(完全予約制、各回5名程度まで) 日程等、詳細は図書館ホームページやポスター等でご確認ください。

出張ガイダンス

先生方の要請に基づき、授業の1コマに参加して、図書館利用ガイダンスを行うものです。日時、内容等、ご希望に沿って設定させていただきます。

また、ライブラリー・ツアー (中央図書館内の各場所の引率案内) もご要望により実施しますので、どうぞご利用ください。

問合せ先: 附属図書館参考調査係 (045-339-3221)

e-mail: ref@lib.ynu.ac.jp